

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。お茶は多めに持たせてくださいますよう、ご協力をお願いします。伝染病・食中毒の予防は手洗いが基本ですので、園では手洗いの指導をしています。外から帰宅した際の、石鹸での手洗いを習慣づけましょう。

もうすぐ水遊びが始まります。下記の感染症に気をつけて、かかった場合は蔓延防止の為、園にご連絡ください。また、気になる皮膚の症状があれば、早めに受診をお願いします。

水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、ぶつとした水ぼうが体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。時間はかかりますが、自然治癒します。イボの内部には、ウイルスが潜んでいますので、イボをつぶした指で他の部位を掻いたりすると増えていきます。爪を短く切って清潔にしておき、患部をかいていぼをつぶしたりしないようにしましょう。

- ★プール・水遊びは可能です。
- ★夏季に限り、登園届が必要です。

とびひ

アトピーやあせも、虫刺され、すり傷などを手で触ったりかいたりすると、皮膚の表面に複数の細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれたり、水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏になると流行します。

患部を触った手で体の他の場所に触れると、感染がさらに広がります。ガーゼなどで覆って、患部に直接触れないようにしましょう。症状に気づいた時は、早めに皮膚科を受診し、治療を開始しましょう。子どもの間で感染しやすいので、家庭でもタオルの共有や、兄弟との入浴は控えましょう。虫刺されやすり傷などは放置せず、清潔に保ち、とびひにならないように注意が必要です。汗をかいたらこまめに着替え、爪は短く切り、毎日シャワーを浴びて体を清潔に保つことが一番の予防法となります。

- ★集団生活ですので、登園の際は必ず患部をガーゼで覆って来て下さい。
- ★プール・水遊びはできません。
- ★夏季に限り、登園届が必要です。

熱中症

熱中症は、日射病、熱射病などの総称です。日射病は、戸外で強い直射日光にさらされることが原因で、熱射病は室内でも気温の高い場所に長時間いたために起こることが原因です。

熱中症の症状

- 日射病…顔は赤く、呼吸が荒くなります。皮膚感覚は熱く、体温が上がっても汗が出ず、めまい・頭痛・吐き気などを伴います。
- 熱射病…顔は青白く、大量の汗をかきます。皮膚感覚は冷たく、めまい・吐き気を伴います。

なぜ子どもは熱中症になりやすい？

子どもは体温調節がうまくできず、温度変化の影響を受けやすい、また衣服の着脱も水分補給も一人で行うのが難しいため、容易にかかりやすいのです。

車や家の中でも熱中症になります

特に車中では、気温が高くなくても高温になるので、子どもを一人にするのは絶対に避けましょう。

予防のポイント

- 日中は帽子をかぶって外出をしましょう。日除けのあるベビーカーも照り返しで暑くなるので、散歩はできるだけ短時間で切り上げましょう。
- 炎天下での遊びは、長時間に及ばないように注意しましょう。海や屋外プールなどの水辺でも、30分毎に日陰で休息をとるようにしましょう。
- 肩まで隠れる、吸湿性、吸水性に優れた衣服を選びましょう。
- 水分補給は、電解質の入っている経口補水液などの飲み物を与えましょう。